

特色ある読書推進活動の紹介



令和7年1月22日発行 福島県教育庁県北教育事務所

県北地区の「読書ボランティア」紹介！

学習センターでの読み聞かせはもちろん、地域の小・中学校の学校司書と連携し、定期的に子どもたちに本の魅力を伝え続けている読書ボランティアのグループがあります。現在は、各学期に1回、1～3年生の各クラス毎で1時間、学校司書と連携して読み聞かせを行っています。

定期的に読み聞かせを行うことで、地域の子どもの成長を見守りながら活動を続けてきた、読書ボランティア“飯坂子どもの本の会「たんぽぽ」”について紹介します。

飯坂子どもの本の会 たんぽぽ

登録人数 12名
活動日 毎月第2木曜日
活動内容 読み聞かせ、わらべうた
昔話 等
活動場所 飯坂学習センター
平野小学校 等



【子どもたちの感想】

- ・『きになる』の絵本が面白かった。
- ・サンタクロースは本当にいると思った。
- ・いろいろな本の話が聞けて、楽しい。

学校司書と読書ボランティアの連携による効果

※ 読書ボランティアの聞き取りによる

- 読書ボランティアが作成したプログラムに、学校司書から子どもの実態に応じたアドバイスをもらうことで、子どもたちがより本に興味をもつことができるようになった。(教科との関連等)
- 読み聞かせの際は、学校司書も読書ボランティアと一緒に活動を行っている。当日の役割分担も事前に行っているため、スムーズに活動を行うことができる。
- 学校司書が読み聞かせ後の子どもたちの様子を教えてくれたり、絵本を中学校でも紹介してくれたりすることが、活動のモチベーションとなっている。

学校司書と読書ボランティアと一緒に子どもたちの読書活動を推進しているんだね！



<子どもたちから絵本の絵がよく見えるように、配慮する様子>

“飯坂子どもの本の会「たんぽぽ」”は、23年前に幼稚園のお迎えの際に、保護者が読み聞かせを行っていたことがきっかけとなり、学校や学習センターでも読み聞かせの活動を行うようになりました。活動を始めて2年目には、小学校の校長先生からの依頼を受け、授業での読み聞かせをスタートしました。「子どもをよろこばせるのが、なによりの楽しみ」「子どもが幸せな時は、みんなが幸せなとき」をモットーに、子どもの成長を見守り、活動を続けています。

福島県の学校司書等を配置している学校の割合は、令和5年度「読書に関する調査」によると、小学校(85.4%)、中学校(84.5%)、高等学校(93.9%)です。学校司書の配置率は年々増加していますが、読書ボランティア等と連携・協力を一層進めていくことが、子どもの読書活動推進にはとても大切です。